

【大会報告】

第40回日本基礎老化学会大会を振り返って
～もう一つの基礎老化の集い～

丸山 光生

国立長寿医療研究センター 副所長

2014年6月に大府市あいち健康の森公園に隣接した「あいち健康プラザ」で開かれた第37回日本基礎老化学会大会のわずか3年後の2017年6月14日から3日間、名古屋国際会議場で老年関連7学会の合同会として第40回日本基礎老化学会大会を今一度、この名古屋で開催させていただけましたこと、先ずは開催に向けてご尽力頂きました学会関係者の皆さんに深く御礼を申し上げます。また、前回に引き続き、愛知での年大会のお世話をされる大役をさせていただけたことは、少なくとも日本基礎老化学会、一会員としての自分自身の歴史には「今、できる最大限のことを、少しでも多くの皆さんに伝わる大会」として刻むことができたと思えば、同時に逆に



写真1 大会ポスター (岡崎・奥山田の垂れ桜)

ある意味、個の力ができることの限界を感じた大会でもありました。

以下、大会内容の詳細、雰囲気等は大会見聞録の稿にお譲りするとして、大会をお世話する立場からこれからの基礎老化研究の発展につながる参考にならばと大会を振り返ることにします。

大会開催趣意書のことを考えはじめる昨年夏の終わり頃は前回、3年前の経験が逆に妙

な余裕が変わって、はじめて大会を開く時の緊張感と実行力が蘇ることなく、大会ポスターには自分のスマホで撮った「樹齢1300年の垂れ桜」を使おうという以外、正直なかなか思うように計画が進まない日々が続きました。今年に入ってからは、日本老年学会合同プログラム委員会で用意周到に開催を待つ他の6学会を眼の当りにして、開催が近づくと連れ、不安や焦りが大きくなりました。それでも結果的には、手際よく対応していただいた大会事務局のみなさんのおかげで6月にしては名古屋を象徴するかの暑い3日間の大会期間中はいくつかのトラブルも何とか最小限に抑えて、他の学会からの参加者も含め、のべ600人の来場者を迎えることができ、ほぼ予定通りに年大会を盛会裡に終えることができました。

今回のテーマは合同会を意識した「老年学から学ぶ基



写真2 合同大会会場 (名古屋国際会議場)

礎老化研究」サブタイトルを「健康長寿を支える老化のメカニズム」とし、7学会合同シンポジウムにも「栄養」、「サルコペニア」、「認知症(基礎)」の3セッションのお世話と日本老年医学会が担当する「フレイル」セッションへの参加をする事ができました。

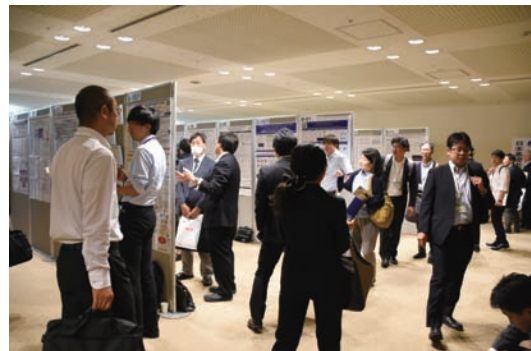


写真3 ポスター会場風景

日本基礎老化学会大会としては、最も重要なこととして今後の基礎老化研究を支えてくれる若手研究者達が一人でも多く、自らの発表の場を得て、国内外の先輩研究者から貴重な助言を頂ける場を提供することであると考えました。具体的には前回お世話した時に頂いた苦言を教訓に学会員の研究発表時間を割くことなく、むしろ若手奨励賞対象発表を含む全一般発表において口頭発表とポスター発表の時間を確保する事で、例年行われてきた会員一人一人の研究についての深い議論が継続されるように配慮しました。

一方、どのような研究を続けていく上でも、新たなチャレンジとそれを支える勇気とやる気は大きな原動力となると確信しています。だからこそ、今後の日本基礎

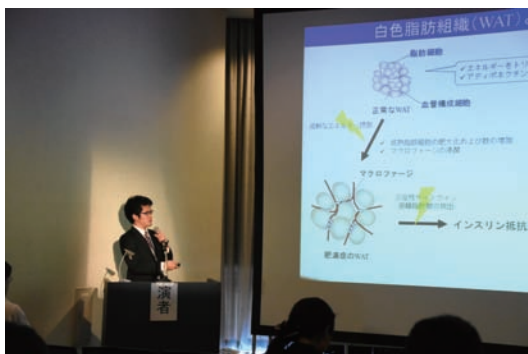


写真4 一般口頭発表風景

老化学会の発展、活性化にはこれまでの形式、枠組の維持と並行して新たな取り組みで若い力、あるいはこれまで基礎老化研究とは距離のあった研究者を一人でも多くこの学会員になってもらう啓蒙活動は必須だと強く感じます。合同会という秋波を受けて、集まっていたいた研究者のみなさんに少しでも基礎老化研究の魅力と必要性を本学会を通して理解してもらうきっかけになればと国内外の最新の研究成果に直接触れる「国際基礎老化シンポジウム」については当初より以前と同様の規模で計画し、人選を進めました。さらに専門性というより、むしろ「基礎老化研究」への親近感を共有できる取り組みとして「企業共催セミナー」を充実させるために多くの皆さんからの助言と支援を頂いた結果、ランチョンセミ

ナー4題を含む計7題の共催セミナーが実現しました。今回はじめて取り入れたアフタヌーンセミナー、モーニングセミナーを含め、全てのセミナーには他の学会員のみなさんも多く参加され、いずれも好評で、「ずいぶん勉強になりました」と言っただけのお言葉も会場に耳にすることができました。また、初来日された先生もいらした国際基礎老化シンポジウムではお招きした先生方のご講演については2日間に渡り、国際水準の基礎老化研究の最先端を直に網羅できたことはとても有意義だったという声も頂きました。

AIの発展が期待される昨今においても、研究者が培う獨創性につながる研究意識の向上には研究背景やその歴史との出会いが重要だと考えます。そうした想いを踏まえ、今大会の企画の目玉として「第40回という節目にあたる大会」に「日本基礎老化学会としての記念懇親会」を名古屋、栄の中心「テレビ塔」にて中日15日に開けましたことが何よりもうれしい出来事でした。予想を上回る参加者に戸惑いながらも、計画段階から積極的にサポートいただいた山下理事、下川理事長そして学会ならびに大会事務局のみなさんと「もうひとつの基礎老化の集会」を実現したという事に加えて、老化の基礎研究を発展させる為にこれまで積み上げて来られた歴史、それから引き継がれる歴史の検証をそれぞれの言葉で御指南頂いた5名の名誉会員の先生方にはあらためてご臨席いただいた感謝の念を示すとともに「引き継がれる歴史のメンバー」一同にとって大変有意義な集まりでした。

末筆ですが、こうしたすべての企画、実行には小さいながらも、大会事務局の構成メンバーひとりひとりの「passion」がなければ決して成し得なかったことだと、あらためて実感しています。参加された皆さま同様にスタッフ一同、さらには大会運営に不可欠な共催について快く賛同して頂きました多くの企業の皆さまにもこの場を借りて心から感謝致します。今回の大会を通じて、多くの会員や学生の皆様、また若手研究者が少しでも基礎老化研究への刺激を受ける良い機会になったことを心から願って、皆様へのお礼と第40回日本基礎老化学会大会を顧みる報告とさせていただきます。

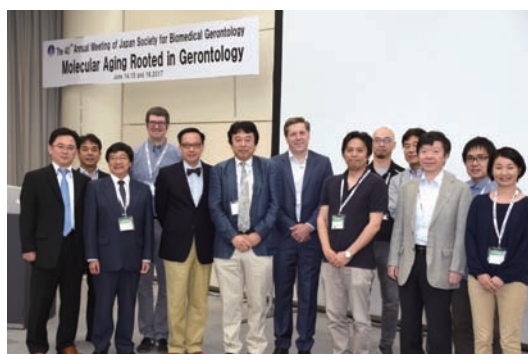


写真5 国際基礎老化シンポジストとの集合写真



写真6 第40回日本基礎老化学会大会記念懇親会